### 令和6度 長崎市環境調査報告書:昆虫類

# 長崎市自然環境調査員 田 中 清

## はじめに

今回は市民の森(唐八景から八郎岳に至る尾根部を中心とした森林公園)を1年間調査しました。

## 1 調査期間及び方法

#### (1)期間

2024年1月~12月の1年間(毎月2~3回の調査)です。なお、1回の調査時間は4時間~5時間です。

# (2)方法

下記の7つを実施しました。

①見つけ取り ②スイーピング法 ③叩き網法 ④エンジンブロア(吸引採集)

⑤石起こし ⑥灯火採集 ⑦PT法(フィットホールトラップ)



図1 灯火採集 (ライトトラップ)



図2 PT法 (フィットホールトラップ)

## 2 調査結果

特定種、外来種、南方系の種及び偶産種、特徴的な種(注意したい種)に絞ってお知らせします。 (1)特定種



図3 ムカシトンボ



図4 マイマイカブリ



図5 ネブトクワガタ



図6 ヤマトタマムシ



図7 オオシロオビゾウムシ

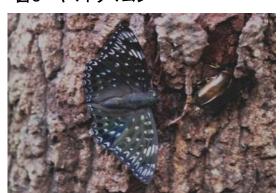


図8 スミナガシ

### (2) 外来種

人間の活動に伴って外国や他県から侵入し、長崎でも見られるようになった種です。長崎市外来種リストに掲載されている7種を確認しました。確認数が少ない種もありましたが、ほとんどは個体数が多いことが分かりました。しかし、特に問題になる種はいませんでした。次にいくつかの種を示しておきます(図9~10)。



図9 アワダチソウグンバイ



図 10 モンキタマムシ

## (3) 南方系の種及び偶産種

南方系の種は、沖縄から鹿児島(先島諸島や南西諸島などに)に分布していましたが、近年分布地を拡大(北上)して長崎でも見られるようになった種です。クロマダラソテツシジミなど5種を確認しました。また、偶産種は、布地が南方にありながら、偏西風や台風などによって偶然運ばれてきたと考えられる種です。迷蝶のウスキシロチョウとメスアカムラサキを確認できました(図 10~12)。



図 11 クロマダラソテツシジミ



図 12 メスアカムラサキ

#### (4)特徴的な種(注意すべき種)

野山で注意する昆虫といえばスズメバチなどと答える人が多いでしょう。しかし、昆虫の中にはハチ以外にも気をつけたい種類がいます。

今回は確認したツチハンミョウ類を紹介します。 これらは、体内にカンタリジンをもっており、不用 意に触れると体液で皮膚炎(かぶれや水疱)を起こ します。

- ①ヒメツチハンミョウ:春に地面を這っています。 全体が青藍色で体長は1~2cm程度です(図13)。
- ②キイロゲンセイ:夏に花上にいます。灯火にも飛来します。全体が黄色で体長は1~2cm程度です。



図 13 ヒメツチハンミョウ

### 3 考察

市民の森は、市街地に近く車で訪れることができ、宿泊施設やキャンプ場もあるので、多くの市民が訪れる憩いの場となっています。しかし、他の地域でも問題になっているイノシシ以外に、シカ、野良猫、タヌキが非常に多く、これらによる土壌の掘り起こし、下草や土壌生物の食害、糞などが多く見られます。また、林内や藪に入るとダニが付着することもあり、注意が必要です。さらに、残念なのは、カブトムシやクワガタムシなどのために使われたバナナトラップの放置やクヌギ樹皮への傷付けなど、植物についても採集による堀跡などが見られ、一部の地域で環境が損なわれていることです。

今回の調査で確認された特定種の数と外来種の数を金比羅山(2011年)の調査と比較してみると、特定種は13種と14種、外来種も7種と9種とほぼ同じでした。しかし、市民の森での特定種の確認数は、年間を通して数頭であった種が多く、今後が心配される状況にあります。

### 謝辞

本調査あたっては、長崎市環境政策課と市民の森内の森林体験館の方々に調査の協力を賜りました。また、合同で調査した深川元太郎氏、カメムシ類の採集や同定にご協力いただいた安永智秀博士と山田 量崇(兵庫県立大学)准教授、さらに採集用具の利用と夜間採集に協力をいただいた長崎西高等学校の 長嶋哲也氏と生物部のみなさんにこの場を借りて、心よりお礼と感謝を申し上げます。

### 参考文献

井上真一 (1998) 長崎市内でムカシトンボを採集, こがねむし(60):49-50, 長崎昆虫研究会. 田中清 (2020) 長崎市の異翅半翅類目録(1), こがねむし(85):43-52, 長崎昆虫研究会. 松尾照男・田中清 (2024) ミナミオオヘリカメムシ長崎県の記録, こがねむし(88):43-52, 長崎昆虫研究会.